

おのゝ八人等一石捕詮議上急度可  
中付事  
十月

菅清傳長舟上水道末之部

寛永二十六年三月

- 一 取之水道水滴拂之事 辺取之屋敷中  
雨天之御毎度二拂之邊邊之屋敷中  
むより之半部一之段之住持小舟成志ハ  
之と多之面之寄合二相拂事
- 一 殊形之月之水滴高嵩之族可段之  
由之古状地之面之書取之黒淋之者二拂之英  
檜掃除之儀同前之事
- 一 屋浦境之水乃唯二相拂中ノ渡着  
滞不於之無油之松急度二付事

右三條法圓身之面、并乃幸行下、付有  
伊豆与對馬与傳、

是

- 一 長屋塙下石垣、成雖為大才向後、種つ、  
石垣、石段、但多末分、八子伝、若、重、  
築、重、時、多、一、堅、つ、石、垣、小、石、は、事、
- 一 長屋塙腰板、成、致、ハ、結、構、なり、向、後、  
雖、為、大、才、何、末、少、く、も、勝、子、次、才、お、ろ、  
く、石、段、之、事、

一 是方石以下之面、ハ、縦、段、為、著、以、産、補、

或、留、半、梁、下、道、屋、の、次、但、基、下、ハ、三、間、梁、不  
若、之、末、段、を、作、重、時、ハ、右、之、方、敷、を、用、  
事、

以上

明曆三酉年二月

是

御中九卷上卷、早、速、御、當、地、難、言、  
御、付、下、く、一、家、屋、意、焼、去、出、向、年、  
涉、延、引、以、然、大、名、法、禱、如、之、面、町、中、迄、

其心深專惟作事 仕以礼又小庭是亦  
中付之也

二月

明曆三月年二月

一 尾高家屋向後離為四拾大石三拾石一但  
去於八不若一有石 作也一三

同年三月

一 町中作事 結砌地形築山も 取敷高下

吾之指中人益往地形築下も 毎海江張町  
より往指築下も 心むさく 家より 築  
中も 取敷事

三月

同年四月

一 跡に改道する 町北の町を 取京間より 或  
六日日本橋通町より 八田舎より 拾石本町通  
系間七石 取敷事 仕度者八早  
一 仕以礼心専 相觸心本者 外之令物心

相討しに之は但表し下ありぬは少く其の  
相討しを以て法に決まらざるは少く作りか  
し中より及事

一 今改正ありて地元の町にありて  
改正ありし角屋の者も表裏に境目町中各  
隣に境元を打ち置たり事

一 作事仕ゆとも長屋を不中及裏柳張るるも  
三百梁より大キに作り中より及

四月

明暦三年六月

一 先日茂中一觸の地以前に地仕ゆ不  
及相討しる  
菅法仕度者ハ

一 清公儀に心より奉る川邊に仕事

一 通町本町並表向三天の地仕ゆに  
相討し免  
長屋の者三人に心より奉る自分  
の地内三天  
切ひき下きるる毎に仕度と  
仕事  
仕事

但自分地の内三天切ひき  
仕度町八行ハ切又ハ表切約ひき  
成

一 仕の假迷惑の存者五ヶ所を町々の  
好考より決り漢町を棚下を町に可  
仕事

一 河原毎表向のひさしお前へ仕事川原  
端橋詰の小屋にけ高貴人並中へお前若小屋  
かけ居り者へ兼お前へ仕事

六月

明曆三年六月

一 先日茂如相觸の如く相改道を本村毎り

一 税を打並山不の度より京百六間明へ各取修り  
下り山は度改り本村通所と田舎間拾間又  
本町と京百七間或は百或は六間杭を本村と  
但本町通りて本村に度町と本村二拾百  
一月半石切海及半石の物ひさしとて各  
庇を改修を之庇の内修り通へ仕事  
一 町と若物ひさし仕度者よりひさしとて  
中山前後の町通り明り相改修り仕事  
一 仕事  
一 尚年相改り京百六間或は百と本相定り

道々杭通布粒と之横町と之海原へ  
 申る物ひさしに仕事  
 一表し雨を河に下り物底に申事言前構と  
 振ふとをいしに流しと若ぬみ込不し粒と  
 の仕事  
 右之通相觸ひる仕事仕度者八町中  
 右流に仕早の仕事仕心と

六月

明暦三年八月

一内々相觸ひ町中仕事仕心津定不海原  
 少産地り申る後通町筋本町通外町と  
 流三人の物ひさしに仕心縦自の地内三人  
 出之柴物ひさしに柱立申る言事  
 一河岸毎岸奥柳多柳多物柳ひしに杭通  
 本粒と建更より其間底に仕心本員外  
 少産地り申る言事

八月

万治元戌年十月

一河岸端定藏り申る言事今述地り来心命

未暮中にて千依名重下り以事終り古教免  
く交ひ息今仕はれ朝にさる廿三人公寸深人返  
之下り山古教免之り一平之無用下は以上  
十月

万治二年二月

一 今夜涉教免名成以新橋本賣山河岸  
如中より山の藏跡有けり小長武間三有  
朝にさる廿六人より大キ、保り中る教免を河岸に  
道九人又六七八人補阿け、並下り山少も相背

中る教免事

二月

今夜焼中り山教免より一少費加如舊有る山  
と申すく山内より事申すも去る如り下り山  
出け屋敷中り山教免より一少費も是れ申すも去る事  
早し勝手次第より一少費事

二月

一 町中より如紀より一少費家より去る山内如





二月

一 實文八申年二月長屋下海下右垣一紙初筆  
一 簡實永二十未年三月簡同文云

實文八申年三月

是 但書以より惣は書元の中海

一 まけ一作事  
一 枚戸一書事  
一 附書院一書事并何字によ〜かの紙

一 有り抱〜抱事

一 結構成木少てぬ〜板事

一 床ふら〜介さん加〜ら答ぬり抱事

附〜紙の〜り付

一 けやま〜門〜事

右〜庭家他今夜紙中〜あひりりの書用た〜  
も〜来家〜〜〜候〜書重〜地書〜書〜け〜条  
〜守〜格〜〜〜海〜

三月

寛文十戌年八月

一 町中河原通去花之早奉詔より涉敷免  
成然河原より早奉詔に仕候法敷免成候  
河原毎よりありとも新想に去花遠よりあり  
青洲に相河作より但去花のりより  
亦も板著りや落し候なり之を以て早奉詔  
より一事

八月

元禄六年七月

一 神田上水乃玉川より及南水道より  
支配に仰付らる向後水道に候有御仕  
以候より乃玉川より直に南水道に  
付有町中石砂より相觸以上

七月

宝永七宮年正月

中渡是

一 是今迄新地より不毛の菅沼仕候所新地より  
相河川沿より相河川向後新地より相河川より

付有言相心候

一 隅田川本母寺奉當三月 開帳 之 付 似 せ  
物 之 相 心 候 彼 寺 之 法 物 之 一 切 出  
不 申 奉 以 旨 付 有 言 存 心

正月

正徳元卯年十二月

光

江戸寺國大之法役屋浦川梅相勤心面  
法役屋敷少斗之破換之旨申上候今迄ハ

手前より一切修儀結末不仕也 法役勤心申  
任后仕儀心向後少斗之破換亦捨置不  
常之儀亦自之旨申上候別旨申候未見若  
及之旨申上候及大破自之修儀難成  
之儀申上候之旨見分之上修儀之旨  
仰付以旨申上候相心候心

十二月

同二辰年十二月

一 通 本 以 燒 失 場 不 申 旨 隔 二 三 年 以 前 之

焼去之町、小屋、未壁附不中む志ろこも  
困之愈山而く在く別火之不用心こはる春又  
成りて早く各々家主之令令吟味いり様も  
壁附させ下り  
右之焼去之町、上相觸以上

三月

享保二周年二月

此度出火付之屋浦、新焼之風、法曲痛之角  
屋敷ハ定之普請延く下はい、おろけ家敷ハ

左之圓持、うりといふも、分限より普請ろろく  
相見え、少積小て、長板の末、に以て是て、八旬端小ハ  
別之家、他大子か、て、浦や、ふい、て、これハ  
右ハ、相触、以上

二月

同日、享保四年四月

一、當二月、類焼之町、一家、他仕、り、新次、上、示  
屋根、仕、る、家、敷、山、下、小屋、子、ま、白、端、重、白  
普請、仕、り、右、之、邊、上、相、触、以上、且、又、新、次、以上

戸斗小波一上小鴨居ホト把仕付以候旨用  
仕付

一 新焼以後新入手屋根不仕新次無一庇  
家並仕付以場所トモトモ今松ノ新入新次  
無一庇仕新入並一庇トモトモ今一トモ

一 當二月新焼ノ所ノ外前ノ新焼ノ所トモ  
新次手屋根不仕新次無一庇家並仕付以  
所トモ新次無一庇ハ左ノ如クトモ

一 前ノ新焼ノ所ノ新次一上屋根不仕付以所  
當ノ新次無一庇家並トモトモ今一トモ

右ノ通テ取人御新次屋根并庇等一取路次  
口戸斗ニ被鴨居ホト把一切家並中ノ御取人

一 新次ノ奥ニ裏店トモトモ取人トモトモ  
新次を門ノ内ニ来り以新次トモトモ屋根并  
手付外迷惑ニ由志トモトモ今一トモ御取人  
白赤良屋取人トモトモ

二月

右ノ通テ先トモトモ中波以今以今御取人並一  
おんはら支配ノ所ノ入意トモトモ今一トモ  
御取人トモトモ今一トモ御取人トモトモ

四月

享保四亥年四月

本町奉行お山等水道并橋之儀白後  
涉代宿へお勤い

同年七月

一本取源川邊上水下水定後切通修儀之儀極之  
戸の之見申りお之儀此今之儀本取奉行諸儀  
之先中付本取御取之儀申儀申儀同修儀此

中付並に屋敷之助成を以右之修儀及橋之  
早之申之自分入用之申お勤い然し而此夜本取  
奉行お山町人有借屋敷より上り此奉行向後之  
場取町奉行之被支配之儀 修儀此右修儀同  
儀之此今之儀町人有借屋敷より上り此儀此  
屋敷被借地此先夜之儀此此儀此代宿代何  
方にお納させ其料を以修儀此より申事  
一本取之内町奉行支配之町屋敷前此之有之  
河岸之古形或之書屋材木之並場亦向後町奉行  
此之支配之成此事

一 湯村木藏止所の場一ヶ所有るは向後八町在り  
支配せしり付事

右の通に於て是の意に由勘定奉行に之を譲り

七月

享保又子年四月

町中若者等は儀古莊傳り或は澁家等并に尾根根  
仕ゆ事唯之とて致さるる格に相成り向後  
右の勘定法は度々存し去りて為勝子に於て  
年竟お火の長防に成成又は能火を以て為

右の外に之を承継し是亦勝子に於て付事

四月

同月

一 去年中湯村木藏止所屋筋次屋根仕り公は度々  
町中若者等傳り湯村木藏止所屋筋次屋根仕り  
以令町人共は承継し是亦勝子に於て付事

四月

同年十月



先

一 水道管詰り候に今迄水元町人の右對少く管詰り  
 候に候も之より向後ハ管詰り候事候とも及事候に  
 右に左邊迄水元管詰り候事候事  
 一 水道水筋詰り候に今迄水元町井戸道事候に及事候  
 候も之より向後ハ水元町井戸道事候に及事候事  
 右に通り右に候に

十月

享保七寛年八月

子川上水候中具よりかろり候事ハ左自今お  
 いひる候向候に之より向後ハ水元町井戸道事候に及事候  
 管詰り候事候に及事候事

八月

同年九月

喜山三田南上水候中具よりかろり候事ハ左  
 自今右山はる候向候に之より向後ハ水元町井戸道事候に及事候  
 上水元町井戸道事候に及事候事

九月

享保七宮年九月

本朝上水之儀申無事り切り以候之儀申付候事不承  
取自今ハ亦右出山可也此上

九月

同八月年十二月

以夜作事之儀取之候事より組合に在事

書付

先

取作随分小位候之儀有候 候事以上之儀申付候事

取之儀高十五之儀申付候事申付候事又六車取  
小もちり候事以上之儀申付候事申付候事  
事

一家作之儀之儀申付候事申付候事

一 尾取之儀 候事以上之儀申付候事申付候事  
一 尾取之儀 候事以上之儀申付候事申付候事  
此儀より不申候事以上之儀申付候事申付候事  
候事以上之儀申付候事申付候事

一 但勝子之儀申付候事申付候事申付候事  
一 朝下登之儀申付候事申付候事申付候事

その一切用ひし事りる事

一作事以後建経又ハ修復之旨を以て菅清之  
格之趣に依りて事

右作事之仕方藤末成等も以て当人ハ不及  
以れし事を越後公以上

十二月

享保十三申年三月

- 一 青町
- 一 一 鞆町
- 一 元山王
- 一 永田町

- 一 小川町
- 一 猿樂町

- 一 渡河屋
- 一 飯田町

右屋敷之家作新焼屋之以て修復又ハ新規  
菅清はひりて向後菅末等亦之はりて事

三月

同古酉年十月

一 麴町之儀去れ申年去花造塗事申す付今之度是分  
在是以前又菅末等菅末等松皮菅末等之山屋有之  
新焼屋根之分して事下地を塗事申す事新焼屋申



作と宜はるに防中令も能く成と在りて自今も  
火く月心無油の中付防に欲も能く下令は且又  
右尾着く月新焼に願及く其宜ちて毎當法は候  
之に於尾着く當法難仕に以て場而八尾及て其宜大略  
地中事無言と云ふ

右に記取支記有く而も八子組に支配可と其宜  
以上

正月

享保十七戌年四月

正月十二日下谷池に揚七軒町より出火に長湯始切  
車に布衣並小石川丸山並に焼込に願及く小尾掛  
は候に勝手次第とい當法を先見合中申  
右に記取白くはり其難候

四月

享保十七子年四月

去月廿八日新焼に牛込門の自願及當法を先可  
為令用公事小尾掛亦は候に勝手次第に事  
一牛込門の外神出坂下迄に願及當法候と其宜

右 後付の面々ハ流筋々々著之仕ゆり勿論  
自分との筋か著之仕の面々流筋ハも以後筋か  
著之仕義と存ハ

右 延政支配より中流の筋々々著之

四月

享保十七子年閏五月

去年万石以上屋敷流筋之面々著信流々々著之  
流筋ハも流筋と不達と有之由在之ハ流筋流筋  
左筋も流筋も著之ハも左筋早速著信流筋ハも著之

本家之儀一去年迄引分ハ不著之以上

閏五月

右 通下は流筋ハ

同十八丑年正月

武士屋敷所屋敷流筋著之屋根流筋流筋ハも著  
之流筋ハも著之流筋ハも著之流筋ハも著之  
事ハも著之ハも著之流筋ハも著之流筋ハも著之  
事ハも著之ハも著之流筋ハも著之流筋ハも著之

正月

右ノ通リニ在ル事也

享保十八年正月

去去三月廿八日新焼山并河門ノ月尾敷ニ  
菅原内介共不誠尾藩ノ管見知介也ノハ尾藩カ  
来以故九月頃迄ハ山尾ノ信守ノ旨ニ屬事ナ  
可ト有リ他在事ハ左様ニ様事ナリ格ニ以テ  
三月上旬ナリト免役尾藩格ニ上仕ル在事ナリ  
以候組合ノ旨見在改ノ候支配方ニ在事ハ右  
日初ノ尾藩切ノ旨面ノ旨以テ之ノ元為不ニ成ル事

遊鳥作事仕ルニハ小屋是ニテナリト

正月

右ノ通リニ在ル事也

同年六月

青町飯田町小川町ノ月世度尾藩カ 仕可ト場  
不火除ノ旨見在及中何候当秋中合此他事  
尾藩可致以候旨見在遊鳥作事ナリ格ニ以テ  
秋作事ハ有リト旨見在ハ防組合取立ノ旨見在  
附志尾藩ニ付尾藩未ニ格ニ可致候事





稻生下種

涉及屋鋪

評定所

傳奏屋敷

小菅信定小倉

古作事小倉

大寺清門外  
新外紫

右屋敷水化、後柿屋根、分有東山、水化、尾  
菅、波、火除、成、比、中、付、二、三、年、月、不、沙、尾  
菅、二、波、水、化、量、信、二、三、年、月、不、沙、尾  
菅、二、波、水、化、量、信、二、三、年、月、不、沙、尾  
菅、二、波、水、化、量、信、二、三、年、月、不、沙、尾

十二月

享保十九寅年五月

大黒越前守

古及屋敷

稻生下種

古及屋敷

評定所

傳奏屋敷

小菅信定小倉

古作事小倉

大寺清門外  
新外紫

取作尾藩、元三年一月、向東山、去冬、相葉、  
濱末、辰、年中、迄、出来、山、松、三、山、松、山、

又月

右、通、向、山、中、濱、山、山、山、山、山、

享保十九寅年又月

取作尾藩、元三年一月、向東山、去冬、相葉、  
濱末、辰、年中、迄、出来、山、松、三、山、松、山、

右、中、山、山、山、山、山、山、山、山、山、山、

右、山、山、山、山、山、山、山、山、山、山、

又月

松平冬敬大補 本多中務補 去屋左門

松平丹波守 安反對馬守

右、山、山、山、山、山、山、山、山、山、山、

細川越中守 酒井雅生氏 戸田伊勢守

去井大炊頭

右、山、山、山、山、山、山、山、山、山、山、

松平相模守 榊原武敏大補 湊川出雲守

本多伯耆守 本多伯耆守 榊村去依守

右、山、山、山、山、山、山、山、山、山、山、

右書付之趣在云々

加納幸江書

大古書紙

秋元集人正

赤性組南上り書紙

松平多富

右月文云 二枚合取之面云々

又月

元文二己年七月

津田橋川橋樂町三河町踏河産違先以爲着  
右付の場而大除いたあはれは及中 行も尚

九月中迄の家作不沙尾着云々  
とて得て此川は松成事ハ有る事申上防組合取  
わく面々を付志く尾着中付産来云々  
右へ毎取たへ而へ云々  
左へ云々  
と改た云々組合之作事被見云々  
来云々の候当十月上旬取たへり  
結勢甚は所云々

七月

右へ紙向へ云々

先年高尾藩に成り奉り町色に外訃に被換りし事分  
亦折立次第に免不直在り山部も其に也風安に改れ  
面し人を附左様とて折立次第に折立一人と也一見不  
可付し事と存す事也

右之通の事相觸

七月

元文三年年十月

先年高尾藩に成り奉り町色に外訃に被換りし事分  
亦折立次第に免不直在り山部も其に也風安に改れ  
面し人を附左様とて折立次第に折立一人と也一見不  
可付し事と存す事也

右之通の事相觸

十月

同又申年正月

松平去依	松平相模	細川裁中
上杉民部大輔	松平阿波	松平丹後
松平越後	酒井雅樂	酒井備後
堀田相模	戸田徳政	阿部信繁
土屋左門	松平丹波	小笠原山城
安藤對馬	溝口右衛門	吉山伯耆

板倉因清書 本多紀伊書 永井元澤書  
 朽木古依書 沼坊因情書 尾田大和書  
 三浦志摩書 増山河内書 鍋島加賀書  
 舟伊伊賀書 松平大藏書 植村古依書  
 石馬海後書 丹羽松泉書  
 先達書家作之儀及著書といふ火除之儀は古書  
 而も辨教書之仕立も尚ふ火除之儀は古書  
 修後ホ藤条加茂之儀は古書といふ火除之儀は  
 古書といふ今も火除之儀は古書といふ  
 右ノ通ニ古書也

又月

寛保二戌年二月

今夜赤坂邊瓦葺お借立 佐村の面々先年も  
 右解の面々在宅古書未随分小位候といふ一冊は瓦葺  
 二付火除之儀は古書信之儀は古書信紙成面々古書  
 是上も又も右對替之儀は古書信紙成面々古書  
 但右對替いふ一冊は古書信紙成面々古書  
 この外 佐村の事  
 右ノ通古解の面々古書也

二月

寛保二戌年六月

一 以夜神田佐木町水之平字清之中志尾作及破損  
加ふ子店ともの住居危し付度修復せ候  
お新隣水店ともの修復致しお新水店  
お新及廻引去り朝日右水隣店に倒借居を押流し  
隣水店を即死人有しお新水店又自分お新  
住居お新打損お新之住居不居入字中付  
住居お新付お新吟味し何れも牢死し以後町之地主

家之住居お新及破損氣急交符しお新  
お新修復お新お新有しお新於お新地震お新  
お新お新お新死人有しお新お新お新お新  
お新お新お新お新お新お新お新お新

六月

寛保二戌年十月

赤坂門の外先代尾藩に  
お新お新お新お新お新お新お新お新  
お新お新お新お新お新お新お新お新  
お新お新お新お新お新お新お新お新

揚々延引し松波事ハヨクシる爰候ハ志尾  
菅ノ付ノ幕末ニ松波ノ候ハ

右ノ通ニシテ其ハ不沙出来ハシノ候末月中次  
支配ナリ松波罷後ニ松波甚ハ所ニテ吾儕ハ

十月

右ノ通ニシテ其ハ不沙出来ハシノ候末月中次

寛保二戌年十月

前ハ家作尾菅ノ波名お在ハ而シテ今ハ尾  
菅出来者ナリ而シテ也右波付末年十月申ニ

不殘尾菅お末波ノ幕末ニ松可波名お  
在ハ而シテ尾菅ノ陽取者お末者前ハ

右ノ准ノ末年四月申ニ火除ニお成ハ松波  
修儀幕末ニ松可波ハ此以後在右ノ

張在ハ火除ニお成ハ松可波ハ

右ノ張尾菅場而シテ向ハ此ノ不沙出来ハシノ候末月中次

右ノ通ニシテ其ハ不沙出来ハシノ候末月中次

十月